

島根県立中央病院で診察を受けられる患者さんへ

当院では、以下の研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、ご自身の試料・情報を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にご連絡ください。

ただし、すでに解析を終了している場合には研究データからあなたの情報を削除できない場合がありますので、ご了承ください。

研究題目	膀胱内留置カテーテルの固定水を減量することによる予定外抜去時の肉眼的血尿の有無への影響
研究期間	2021年6月17日～2023年10月31日
対象患者	①カテーテル留置の継続が必要、かつ認知機能低下やせん妄を発症する可能性が高い状態の患者さんで、自己抜去のリスクが高いと判断される患者さん。(介入群) ②インシデントレポートより、入院時、認知機能低下やせん妄を発症する可能性があったと判断され、カテーテルを予定外抜去された患者さん。(非介入群)
対象期間	① 2021年6月17日～2023年10月31日 ② 2018年1月1日～2021年6月17日
研究機関の名称	島根県立中央病院
実施診療科	全診療科（小児科を除く）
研究責任者	立原 怜
意義・目的	本研究の目的は、カテーテルの固定水を規定量より減らした場合、自己抜去された際の肉眼的血尿が減少するかを明らかにすることです。カテーテルを自己抜去する可能性のある患者さんの身体拘束・抑制の減少、尿道損傷の減少の一助となると考えます。
研究の方法 (試料・情報の利用 方法・他施設への提 供方法を含む)	介入群として同意の得られた患者さんに対し、予めカテーテルの固定水を減量しておきます。カテーテルの予定外抜去が起こった際に、バルーン部分が膨らんでいることを確認したうえで、肉眼的血尿の有無を確認します。またインシデントレポートをもとに、カテーテル予定外抜去の患者さんを抽出し、非介入群とします。介入群と非介入群において肉眼的血尿の有無について統計分析を行います。
利用・提供する試 料・情報の項目	背景：年齢、性別、現病歴、既往歴、内服薬 カテーテルに関する情報：サイズ、血尿の有無、予定外抜去となった際の状況 検査データ：末梢血算：血小板、生化学（総蛋白、アルブミン、総ビリルビン、AST、ALT、LDH、ALP）、凝固・線溶スクリーニング（APTT、PT、フィブリノゲン、FDP）、Dダイマー 等
試料・情報の 提供の有無	試料・情報の他施設への提供 なし (ありの場合、海外の施設への提供 あり・なし)

個人情報の保護	当院における個人情報保護の基本方針に準じて行います。
結果の公表	投稿論文として公表します。
備考	

***** お問い合わせ先 *****

島根県立中央病院

入退院支援・地域連携センター 立原 怜

電話：0853 - 22 - 5111
